



CITIZEN'S PLAZA

市民のひろば

市民の皆さんからの投稿作品をご紹介します！



[投稿者]

フレンドシップ
ドールプロジェクト
(事務局:川口)
☎090-3303-7355

時を超えて つないだ絆 ^{どうれい} 答礼人形「ミス・フクエ・アツミ」

昭和2(1927)年、福江小学校に青い目の人形がやってきました。これは日米友好の証として国内の小学校に12000体以上が贈られたうちの一体です。当時の日本では、その好意に応えるために、各県を代表した日本人形58体をアメリカへと贈りました。これらの人形を「答礼人形」といいましたが、当時の福江小学校では、これとは別に、子どもたちの絵や習字とともに、独自の答礼人形をアメリカのフラトン市に贈りました。この人形は「ミス・フクエ・アツミ」といいました。しかし、その後日米の戦争が起こり、日本へ贈られた多くの人形がそうであったように、福江小学校の人形は、敵国の人形として処分されてしまいました。



▲ミス・フクエ・アツミ

それから69年後の平成8(1996)年、「福江小学校が贈った人形がフラトン市の公立図書館に残されている」との手紙が福江小学校に届いたのです。そして、かつて日本へ青い目の人形を贈った人物の孫であるシドニー・ギューリック三世が、このエピソードを知り、独自の答礼人形を贈ってくれた特別な小学校、ということで、福江小学校に新しい青い目の人形「カレン」をプレゼントしてくれたのです。



▲打ち合わせをする川口事務局長(写真左)と間瀬会長(写真右)

現在「カレン」は、福江小学校の校長室に大切に飾られています。「カレン」と「ミス・フクエ・アツミ」、この両国に残された2体の人形には、贈られた年代は違えども、日本とアメリカの子どもたちの友好と平和への願いが込められています。

《インタビュー(間瀬会長・川口事務局長)》

■「フレンドシップドールプロジェクト」とは？

「ミス・フクエ・アツミ」のエピソードや、平和の大切さを広く知っていただきたいと思い、立ち上げたプロジェクトです。この人形の存在は、地元でも長い間忘れられており、このまま風化させてはいけないと強く思いました。

■里帰り叶わず

「ミス・フクエ・アツミ」の里帰り展ができないかと、フラトン図書館に手紙を書きました。しかし、図書館からの返事は「人形が92歳で高齢のため動かせない」とのことでした。里帰りは叶いませんでしたが、それでもこの人形のことを子どもたちに伝えたいという思いは消えませんでした。

■紙芝居に思いを込めて

そこで、子どもたちに伝えるのに紙芝居はどうかと考え、現在制作しています。日本はアメリカと戦争をし、その時に初代の青い目の人形は壊されてしまいました。それまでの日米の交流は途絶え、両国の人々は戦争で多くのものを失いました。このことを理解し、二度と戦争はしてはいけないと、子どもたちの心に刻んで欲しいと願っています。